

「むかしの勉強・むかしの遊び」展

同展は、昭和30〜40年代を中心に、学校の教室や家庭の居間、駄菓子屋の店先などを再現しています。この時代は、いわゆる高度経済成長期と呼ばれ、人々の暮らしや町の様子が大きく変わりました。

今回は、当時最新だった電化製品なども展示しています。この頃「三種の神器」と呼ばれ、急速に普及した白黒テレビ・洗濯機・冷蔵庫。それまで使われていた木製の氷冷蔵庫も並びます。60代のご夫婦は、「氷冷蔵庫に入れる水、氷屋さんが配達してくれてたね」「大きなこぎりで切ってくれてね」と懐かしそうに話していました。白黒テレビの前では、「これ、どうやってチャンネル変えるか知ってる?」とお父さんが息子に話しかけます。あちこちで、「こういうの、あったね」「昔はこんなだったの」と会話が弾みます。2月28日(日)まで開催中の同展に、皆さんも出掛けてみてはいかがですか。



電気冷蔵庫(左)と氷冷蔵庫(右)



リビングに優雅な音を届けた、VictorのHi-Fi Stereo Audiola



子どもたちが熱中したペーゴマ

古谷種子生産組合



農政課 224-5939

古谷種子生産組合は、翌年に「種子」として利用するお米を栽培している組合です。「入間地域内でも、お米の種子を作っているのはここだけだと思いますよ」と胸を張るのは、組合長の秦勉さん(大中居)。

昨年栽培したのは、埼玉県生まれの品種「彩のみのり」。組合では2.5haの田んぼで9,500kgの種子を生産しました。これは300ha以上に作付けできる量ですが、入間地域内だけですべて使われてしまうほど需要が多いそうです。

種子の生産で一番大変なのは、収穫してから出荷まで時間がかかること。9月に刈り取ったものは、乾燥した後、選別作業などを行い、最後に種子としての検査を受けるのは12月半ばになります。「米農家にとっては出荷が終わるまでが秋。私たちには秋が4か月あるんだよ」と秦さんは笑います。種子生産農家が、日本の主食・お米を影から支えています。



一袋ずつ状態を検査して、合格したものが出荷されます

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜

ハウレンソウ、コマツナ、ブロッコリー、ニンジン、トマト、イチゴ、サトイモ、サニーレタス、ネギ、ハクサイ

編集後記

どんぐり

若者たちの笑顔があふれた成人のつどい。会場前に設置された絵馬には新成人の夢や初々しい決意がたくさん書きこまれました。

毎年、近隣の学校の生徒たちが描いた大きな絵馬が飾られるのは、川越八幡宮。縦4・5m、横5・4mの「ジャンボ絵馬」が道行く人々を楽しませてくれます。川越第一中学校と山村学園高校の美術部の生徒たちが、夏休みから11月までかけて描きあげた申年の絵馬。



個性あふれる猿たちは大ききもタッチもさまざまですが、みんな優しい顔をしています。絵馬の明るい色彩が、一瞬寒さを忘れさせてくれました。

した。

